

ちよつぷつ話

第一四〇号 懺悔

佛前にて称えます偈文に

我昔所造諸惡業・皆由無始貪瞋痴・從身語意之所生・一切

我今皆懺悔」とあります。人間は因縁因果によつて生まれる前から今日に至るまで、多

くの方が諸悪の中に身を沈めております。この原因は間切れも無く殺生したり、盗み
を働いたり、邪淫に溺れたり、偽りや、二枚舌を使つたり、貧欲に目が眩み愚痴つた
りし、悪によつて汚染され我が身が垢で錆ついてしまうことです。当に身の悪・心の悪・
言葉の悪であります。悪い事をしてはいけませんと話すも、何故ですかと聞かれたらど
のように説明しますか。答えは前に説明した通り、六識・眼・耳・鼻・舌・身・意が
汚され、それぞれの機能が正常に働かなく成るからだと教えよう。

誰でも人間は最大の福を求め、最小の不を願うものです。そこには最中という道程が
あります。最中の働き如何によつて大なるか小なるかが決まります。中はまさに佛の
中道と同じです。右の災難、左の不幸から逃れる事の出来る真ん中の一筋、中道即ち
正道のことです。最中に於いて挫折すること無く正道に精進しなくてはとても望みが
叶うものではありません。仏法に左右の隔たりは無く、皆平等に助け、助け合うのです。

例えて言いますと福島原発が地震で壊れ地元に住む方々は住み屋を追われただけ
では済まず、セシウムとの関係で、ゴミ等の処理に他府県は受け入れに消極的です。仮
に関東から東海地方で同じような災害が発生しても条件は同じで後始末には苦勞する
と思われまふ。自分勝手な考えを押し通せばやがて我が身が同じ事を受けることになり
ましよう。毎日が一機一縁、一期一会です。自分は正しいと思つても今一度 我が心に
尋ね、我が身体に尋ね、我が目に聞き、我が耳に尋ね、今日も禍無き様にと」同じ気
持ちで神佛にも祈りを捧げなくてははいけません。この心を亡くせば妄念が芽生えてしま
います。私達は一步が一步の道を造り、百歩が百歩の道を造ります。我々の過去は事跡
として道を残すも、行く先は未知なるが故に道は無く、神佛に良き道が造れる様に導い
て頂くしかありません。人間には過去を託すのであれば毎日を懺悔しながら暮らすのが一
番です。懺悔して罪を軽くしてこそ私達は明るい扉を開ける事になるからです。

いつの世も、尽して求めず、皆友として支え合い、諸佛に見守られ、諸菩薩に助けられ、
報恩忘れず、皆が御佛に感謝し、佛力加護を受けれる身となれば、今日も良いかな